

ブダペスト通信

盛田 常夫



2022年 NO. 4

1月12日

今日の話題

ハンガリー政府、いち早くカザフ政権支持を打ち出す

イスラエルのスパイウェア Pegasus 事件のその後

ハンガリー大統領の地位と報酬

ハンガリー政府、いち早くカザフ政権支持を打ち出す

オルバン首相とスィーヤルトー対外経済・外務大臣は1月11日、カザフスタンのトカイェフ大統領支持を打ち出し、事実上、ロシア軍によるカザフスタンへの軍事介入を支持する姿勢を明確にした。ロシアやカザフ大統領の見解を肯定し、「デモ隊鎮圧はカザフスタンの憲法的秩序が破壊されることにたいする正当な行為」であり、「ハンガリー政府はカザフ政権への支援を惜しまない」と、ロシアや中国と同調する態度を明確にした。

この態度は、EU首脳が表明してきた態度や他のV4諸国との態度とは一線を画するもので、EU加盟国で唯一、カザフ政権支持を表明していることは興味深い。「カザフのデモ隊が暴徒化したのは背後に外国勢力がいる」というカザフ政権の見解を支持し、国際監視団や国際NGOがこの状況で入り込む余地はないと明言している。

昨年、アメリカが主導した「民主主義サミット」にEU加盟国から唯一招待されなかったハンガリーは、ますますロシアや中国への傾斜を強めている。EU首脳はカザフ大統領に「デモ隊への警告なしの銃火器使用」への懸念を伝えているが、1956年動乱を経験しているハンガリーが、「銃火器使用の正当性」を認めるのは解せない。反社会主義反共産主義を唱えながら、ロシアや中国の専制政治へ傾斜しているハンガリーの現政権は言行不一致であると言わざるを得ないが、明らかにその背後には権力維持と隠された利権獲得の現実的な欲求がある。

現ハンガリー政権は自らの権力維持のためには自らが唱える思想やイデオロギーを曲げてでも、現実的利益のために動くという行動をとる。FIDESZのイデオロギーはただの飾りに過ぎない。資源国カザフの政権と良好な関係を築くことは、対カザフ権益（国家利益ではなく、FIDESZの息のかかった会社の利益）の保持のために必要であり、それはロシアとの関係を維持することでも重要である。オルバン首相は近々、プーチン大統領との会談を予定している。

イスラエルのスパイウェア Pegasus 事件のその後

ハンガリー政府がイスラエルのスパイウェアを使って、政府に批判的なメディア記者や実業家を盗聴していることが暴露されたが、ハンガリー政府は Pegasus 購入を公式に認めていない。しかし、すでにコーシャ・ラヨシュ FIDESZ 議員は 11 月の国会委員会の後に、「内務省が購入した」ことを明らかにしている。他方、内務大臣はイエスともノーとも答えておらず、国会の防衛委員会における Pegasus 問題の議論は、2050 年まで機密とされている。一方、ポーランドでは与党率いる PiS（法と正義）党首のカチンスキーが Pegasus 購入を認めた。

1 月 4 日付けの Neue Zürcher Zeitung は、Pegasus 事件が報道されてから、スパイウェアを使用している 102 の顧客（契約者）が 37 に減少したこと報じている。このソフトを販売しているイスラエル企業 NSO は、事件がスキャンダル化しているハンガリーとポーランドとの契約を破棄したという。また iPhone がターゲットになったことで、Apple 社は NSO を提訴している。

ハンガリー大統領の地位と報酬

1994 年の自由選挙後に国会で選出されたハンガリー大統領は法学者マードル・フェレンツ、その後が 1956 年動乱で死刑判決を受けた文人グウンツィ・アルパード、彼を継いだのは法学者ショーヨム・ラスローで、ハンガリー社会で地位を築き、それなりの人物として評価されてきた人々である。それぞれ国会会派が事前協議を行い国会で選出された。

FIDESZ 政権になって、政治家のアーデル・ヤーノシュが大統領に選出され、政治家が大統領になる事例が作られた。もっとも、アーデルはアカデミー社会学研究所に研究員として勤めていたことがあり、学究的な経歴をもっているし、大統領になってからは水資源の研究を行っている。1989 年に FIDESZ に加わり、党の重鎮として活動してき

た。野党政治家との関係も悪くなく、幼児性の強い政治家が多い FIDESZ にあって、大人の政治家である。

オルバン首相は国会での協議を経ることなく、今年4月に任期が切れるアーデル大統領の後任に、ノヴァク・カタリン（1977年生まれ）を指名した。首相の息がかかった人物を大統領に据えるのでは、ロシアや中国と変わらない。彼女は外務省職員を経て、人材資源省の家族担当官を務め、2018年に国会議員となって2020年から家族担当無任所大臣に就任した。基本的には政府官僚出身で、国会議員になって3年目の女性である。当初、オルバン首相は法務大臣のヴァルガ・ユーディットを考えていたようだが、Pegasus 事件の当事者であるだけでなく、同性愛者だという風評が出た段階で、ノヴァクに切り替えたのではないかとされている。

この後者の件は、ジュール市元市長ボルカイのセックススキャンダルを暴露した Az ördög ügyvédje（悪魔の弁護士）が、Facebook にヴァルガ・ユーディットは同性愛者だという書き込みをおこなっている問題である。ハンガリー政府は権力基盤を強化するために、「同性愛にかんする教育を公的機関で行ってはならない」という法律を制定し、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長から厳しく批判されている。これにたいして、FIDESZ 政権は4月の国民投票を控え、無用な混乱を避けようとしたと考えられる。

ただ、FIDESZ 創設からオルバン首相の盟友で欧州議会議員だったサイエル・ヨージェフがブリュッセルで、コロナ規制の最中、同性愛者のパーティに参加して、パーティ会場に突入したベルギー警察に拘束された（2020年12月）。サイエルは議員を辞職して、バラトン湖畔に住居を移している。また、オルバン首相の長男が、大学の卒業論文で、同性愛に関する論考を発表しており、FIDESZ の法律制定と矛盾する事件が周辺で起きている。なんとも皮肉なことだ。

いずれにしても、ここ2年の家族担当相の活動以外、特筆すべき社会活動歴のないノヴァク女史が大統領に指名されるということになれば、ハンガリー大統領の地位が限りなく低いものになる。まさにモスキート級大統領誕生ということになるろう。もっとも、こういう事例が続けば、大統領になるのにそれほどの資質は要らなくなり、ハンガリー大統領はほとんど飾りに近い存在になるであろう。

モスキート級とは言え、ハンガリー大統領にはそれなりの物的条件が保証されている。本人のみならず、配偶者にも私用と公用の車が付く。配偶者にも必要と認定されれば、2名の秘書が付く。大統領報酬は国家議長の1.1倍と決められており、およそ月額400万Ft（およそ150万円）である。それほど高くないと思われるかもしれないが、ほとんどの生活費用が公費で賄われた上での報酬であり、高額報酬の大部分を貯蓄に回すことができる。大統領を辞めてからの年金額も、ほぼこれに匹敵する。さらに、大統領辞任後も、車の提供が続くし、必要とされる場合には3名の秘書と事務所が保証される。至れり尽くせりである。

このような条件がハンガリーの経済状況に見合っているかどうか。40歳そこそこで、たまたま政権政党の政治家になって2年間大臣を務めただけで、一生生活に困らない保証が得られる。もっとも、体制転換時の首相だったネーメットも、ハンガリーの首相年金（1年半）と名誉職EBRD副総裁（10年）の年金で、50歳を過ぎてからバラトン湖畔で悠々自適の年金生活を送っている。ハンガリーは右翼左翼にかかわらず、エリートに特権的な地位を保障している。